

高橋家

高橋家住宅は、重要な龍源寺間歩へと向かう道端にあります。この住宅がその場所にあるのは、この家の住民が長年にわたって地元の採掘共同体において重要な役割を担ってきたことで説明されます。**1839**年に石見銀山の鉱山経営者は、当時高橋家の家長であった富三郎氏を選出して、坑夫と江戸（現在の東京）にある幕府の代表である現地の代官所との連絡役を務めさせました。この連絡役の任務には、事業体の採用をはじめ、銀山での作業に必要な免状の発行や産出された銀の江戸への輸送を確保するための管理を任されていた幕府の代表者と、さまざまな採掘事業体との仲立ちが含まれており、重要な役職でした。

高橋家は銀山の管理に関わったことで、最終的にはこの地域で最大かつ最も豪華な住宅を建てるのに十分な相当の財産を蓄えました。**1860**年頃に完成したこの住宅は、道路に面する母屋、庭の茶室、裏手の離れで構成されています。現在、高橋家住宅は一般公開されていませんが、石見銀山での銀の産出が近代へと差しかかる時期の裕福な坑夫とその家族の暮らしがうかがえます。